



キャンパス / 兵庫県神戸市、西宮市 学生数 / 9,102人 建学の理念 / 「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を啓発する人物教育の率先」「世界に通用する紳士・淑女たれ」
 学部 / 文、理工、経済、法、経営、知能情報、マネジメント創造、フロンティアサイエンス、グローバル教養学環
 大学院 / 人文科学、自然科学、社会科学、フロンティアサイエンス
 THE 日本大学ランキング2023 / 141-150位

CASE STUDY

長年築き上げてきた強みを改組で際立たせ、社会に伝える

甲南大学

グローバル教養学環(STAGE*1)を新設、さらに理系3学部の改革にも乗り出す甲南大学。埋もれがちだった教育の特色を時代に合う形で再構築し、光を当てる。



学長
中井 伊都子
 なかいいつこ ●1989年京都大学法学部卒業。1995年同大学院法学研究科博士課程中退。1998年甲南大学に着任。法学部学部長、キャリアセンター所長、副学長等を経て、2020年より現職。公益財団法人世界人権問題研究センター専任研究員。

既存の教育資源を集約「学環」として前面に

2024年4月、グローバル教養学環を開設しました。本学のグローバル教育の歴史は古く、1970年代から学生の国際交流を推進。2015年には「融合型グローバル教育」を合言葉に、全学部で国際力や行動力の育成を強化しました。ただ、全学的な動きであるが故に、「グローバル」や「国際」を冠した学部学科はなく、高校にその特徴が十分に伝わっていないため、フラッグシップとなる学部などをつくる必要性を感じていました。

新学環の教員は共通教育担当者11人が中心。語学、社会科学、データサイエンスなどの科目を分野横断的に編成しています。複数言語圏への2回の留学、4年間のゼミ活動、入学定員25名の少人数制など、もともと有していた本学の特色を

先鋭化して教育に反映しました。構想に至る議論が始まったのは2021年。その前年に開設した全学教育推進機構が主体となり、強みであるグローバル教育を教育課程化しようと、2回留学のしくみを模索しました。この背景には、高校生の英語スピーチコンテストなどにも携わる教員が把握していた、「コロナ禍による行動制限がなくなったら海外に行きたい」という高校生のニーズもあります。

「ミディアムサイズの総合大学」である本学は、学部数に比して規模が大きくなく、人手や資金が豊富とは言えません。そこで、既存の資源を生かして特色を打ち出す手段として、2019年度に施行された学部等連係課程制度を活用し、新学環として開設したのです。

学内外の厳しい声が構想を洗練させた

学部等連係課程制度を活用した新学環の構想策定は容易ではありませんでした。開設には各学部の協力が必要ですが、斬新な案だけに不安視する教員が多く、「多様な学びに対してディプロマ・ポリシーはどう設定するのか」「2回もの留学を実現できるのか」などの厳しい声が相次ぎました。そこで、

「なぜこの教育なのか」について、あらためて議論を尽くし、育成する人物像やカリキュラムを抜本的に見直しました。届出書類に設置のロジックを明瞭に記すことができたのは、このプロセスがあったからです。さらに、企業役員や卒業生で構成された「甲南大学教学アドバイザー・ボード」にも計画内容をプレゼンし、卒業生の視点からの意見やアイデアを実際の教育活動に生かしています。

新しい教育組織の設置は15年ぶりです。慣れない届出事務や文科省とのやり取りを「手引」と首っ引きで支えた職員チームの尽力もあり、無事に開設に至りました。今後の教育実績により、新学環は本学のグローバル教育の「顔」となることでしょう。

2026年4月には、「大学・高専機能強化支援事業」に選定された理工学部環境・エネルギー工学科を新設予定です。同時に、理系3学部の再編や、大学院での研究科や専攻の新設により、社会のニーズに対応した学びを実現させる「進化型理系構想」が進行中です。

国の支援策ありきの改革ではなく、本学が打ち出したい強みと合致する施策が出た際にすぐに対応できるよう、今後も各組織で「甲南らしさ」を追求していきます。

主な新設・改組の流れ

年度	2001年	2008年	2009年	2024年	2026年	
変化	文学部歴史文化学科を増設 理工学部を理工学部と名称変更 学科再編	知能情報学部を新設 理工学部を再編	マネジメント創造学部、 フロンティアサイエンス 学部を新設	学部等連係課程制度を活用し、 グローバル教養学環新設	理工学部を再編し、 環境・エネルギー工学科 増設(仮称・設置構想中)	
学部・学科	文学部	日本語日本文学科(70)	日本語日本文学科(70)	日本語日本文学科(70)	日本語日本文学科(70)	日本語日本文学科(70)
		英語英米文学科(90)	英語英米文学科(90)	英語英米文学科(90)	英語英米文学科(90)	英語英米文学科(90)
		社会学科(90)	社会学科(90)	社会学科(90)	社会学科(90)	社会学科(90)
		人間科学科(90)	人間科学科(90)	人間科学科(90)	人間科学科(95)	人間科学科(95)
		歴史文化学科(60)	歴史文化学科(60)	歴史文化学科(60)	歴史文化学科(60)	歴史文化学科(60)
	理工学部	物理学科(90)	物理学科(50)	物理学科(50)	物理学科(50)	宇宙理学・ 量子物理工学科(45)
		生物学科(45)	生物学科(45)	生物学科(45)	生物学科(45)	生物学科(45)
		機能分子化学科(100)	機能分子化学科(100)	機能分子化学科(60)	機能分子化学科(60)	物質化学科(45)
		情報システム工学科(100)				環境・ エネルギー工学科(40)
	経済学部	経済学科(350)	経済学部 経済学科(350)	経済学部 経済学科(350)	経済学部 経済学科(345)	経済学部 経済学科(335)
	法学部	法学科(210) 経営法学科(140)	法学部 法学科(350)	法学部 法学科(350)	法学部 法学科(330)	法学部 法学科(330)
	経営学部	経営学科(345)	経営学部 経営学科(345)	経営学部 経営学科(345)	経営学部 経営学科(345)	経営学部 経営学科(335)
		知能情報学部 知能情報学科(120)	知能情報学部 知能情報学科(120)	知能情報学部 知能情報学科(120)	知能情報学部 知能情報学科(120)	
		マネジメント創造学部 マネジメント創造学科(CUBE)(180)	マネジメント創造学部 マネジメント創造学科(CUBE)(170)	マネジメント創造学部 マネジメント創造学科(CUBE)(170)	マネジメント創造学部 マネジメント創造学科(CUBE)(170)	
		フロンティアサイエンス学部 生命化学科(FIRST)(35)	フロンティアサイエンス学部 生命化学科(FIRST)(45)	フロンティアサイエンス学部 生命化学科(FIRST)(45) 4つのサブコース設置	フロンティアサイエンス学部 生命化学科(FIRST)(45) 4つのサブコース設置	
			グローバル教養学環(STAGE)(25)	グローバル教養学環(STAGE)(25)	グローバル教養学環(STAGE)(25)	

※2024年に甲南デジタルツイン研究所を設立

注目 GX分野の研究実績を基に学科を新設 理系人材の育成活性化を地元も歓迎

2026年始動予定の「進化型理系構想」は、開学以来70年以上重ねてきた理系の教育・研究の実績が、社会に伝わりきっていない課題感が発端だ。執行部と理工学部は、2019年に設置したエネルギー変換材料研究所に着目。再生可能エネルギー等の研究がGX分野に該当することから、「大学・高専機能強化支援事業」を活用した「環境・エネルギー工学科(仮称)」新設を着想。磨いてきた強みを現代社会のニーズに対応させて打ち出す。

この着想を機に、理系3学部と関連研究科からなるタスクフォースを結成し、同大学の理系教育・研究全体をアピールする方針を固めた。3学部全体の大学院進学率を現状の20%弱から30%に向上させる目標も設定。2027年には理系棟を新たに建て、学部や学科を超えた交流を促す。

神戸市を中心とした地元の理系人材ニーズは高く、「過去の新設・改組時にならないほどの歓迎ムード」(町田信也理工学部長)。オープンキャンパスの理系学部ブースは文系生徒を含む高校生でにぎわい、地元プラットフォーム*2は率先して、理系3学部との懇談イベントを企画している。

進化型理系構想の概要

共通	●大学院への進学率を30%まで引き上げる(目標) ●岡本キャンパスの新理系棟竣工(2027年予定)
理工学部	●環境・エネルギー工学科新設(2026年)* ●物理学科を宇宙物理学・量子物理工学科に改組(2026年)* ●機能分子化学科を物質化学科に改組(2026年)*
知能情報学部	●甲南デジタルツイン研究所設立(2024年)
フロンティアサイエンス学部	●創薬、医療、先端材料、食品・化粧品のサブコース設置(2026年)* ●研究開発リーダー養成プログラム導入(2026年)*
理系大学院	●自然科学研究科に環境・エネルギー工学専攻を新設(2026年)* ●自然科学研究科の知能情報学専攻が知能情報学研究科として独立(2028年)* ●各専攻の定員を拡充(2030年)

※仮称・設置構想中

*2 大学都市神戸産官学プラットフォーム。神戸市を中心に、市内や近辺に本拠地を持つ12大学・高専と多数の企業・団体が参画

*1 Special Track for Accelerated Global Education

取材・文 / 見山雄介 撮影 / 近藤織弓